

急増する国際郵便物の植物検疫

外国から植物類を郵便物で輸入する場合は、小型包装物、小包郵便と国際ビジネス郵便のいずれかに限られており、『植物類在中』の表示をすることになっている。これらの郵便物は全国に16局ある輸入通関手続きのできる郵便局、すなわち通関局に集められ、最寄りの植物防疫所が植物検疫を実施している。

最近、郵便物として輸入される植物類が大幅に増えており、昭和60年は6万7千件、30万個、93.5トンだったものが、平成3年には2倍以上の13万6千件、34万8千個、236トンとなっている。

その背景には、①イラン、タイ、ブラジルなど外国人就労者の急増に伴い、故国から送られてく

る食料品や香辛料の増加、②商品見本として、高品質の花き及び野菜種子の輸入増加、③国際ビジネス郵便の定着による切花や各種植物の苗類が手

軽に迅速に送られるようになったことに伴う利用者の増加などがあげられる。

このような輸入急増に伴い首都圏の通関局を担当する植物防疫所では、迅速な検査が求められる国際郵便物の検査に多忙を極めている。特にミバ工類の寄主植物のため輸入禁止品となっている生トウガラシやマンゴウなどの熱帯果



国際郵便物の検査風景

実が郵便物の中に混入している事例が多いことから、植物防疫所では万全な検疫体制で検査を行っている。

海外のニュース イギリスに新発生したジャガイモ塊茎を加害するナミクキセンチュウ

1990年10月、イギリス農水産食糧省中央科学研究所が市販用ジャガイモの塊茎(品種: Maris Piper)を調査したところ、約10%に乾腐症状が認められた。この症状は明瞭な円形で、塊茎の表面が窪んでひび割れしたり、表面が壊死してその部分が開いて深くへこんだ状態を呈しており、被害塊茎を切ると、腐敗部分は塊茎の中央部へ漏斗状に伸展していた。

これら塊茎の腐敗組織からペールマン法により線虫を分離したところ、1塊茎当り2,000頭以上のナミクキセンチュウ *Ditylenchus dipsaci* が検出された。本種の寄主範囲は広く、いくつかのレースが知られている。今回検出された線虫の雌成虫は体長約1,300 μ mで、oat-onionレースに類似していた。

イギリスでは、本種がジャガイモの地上部をまれに加害し、茎のわい化、よじれ、肥大、ひび割

や葉のしわ状の縮みなどの被害を起こしていたが、塊茎への寄生は認められていなかった。

しかし、オランダにはジャガイモに寄生する本種が3レース知られており、オランダを含むヨーロッパ大陸の一部では、すでに塊茎への被害が確認されている。

通常、ジャガイモ塊茎に乾腐症状を引き起こす線虫は、イモグサレセンチュウ *D. destructor* が知られているが、イギリスにおけるナミクキセンチュウによる塊茎への被害の報告は、今回が初めてである。

(Plant Pathology 41,1992)

発行所 横浜植物防疫所
〒231 横浜市中区北仲通6-64 ☎(045)211-2299
発行人 上垣隆夫
編集責任者 綬持秀禎
印刷所 内村印刷株式会社